

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 80 分

## 解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数はやや増えたが、全体としては解答しやすくなった。

## 出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同じく、全問とも文章中の空所を埋める形式の出題であった。

## その他トピックス

特に無し。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述・ マーク)	力学 (等加速度直線 運動・慣性力)	物理	物体が斜面から水平面を運動するときの、最短時間を考える問題である。 [ほ]では三角関数の具体的な値が与えられた表を用いて計算する必要がある。	標準
II	空所補充 (記述・ マーク)	電磁気 (静電気力・電 流の作る磁場・ ローレンツ力・ 電位)	物理	静電気力、静電気力による位置エネルギー、直線電流の作る磁場とローレンツ力に関する問題である。 [2]は、直線状に分布する電荷が作る電場をガウスの法則から求める必要がある。 [3]は、針金の断面を通過する電気量から電流を求めなければならない。 [4]は、[ホ]、[へ]の空所を埋めるのに三平方の定理を用いるとたやすくなる。	やや難
III	空所補充 (記述・ マーク)	熱 (気体の状態変 化)	物理	単原子分子気体の等温変化、定圧変化、断熱変化についての問題である。 [ホ]では外気圧が[1]の現象から $p_0$ であることに気づかなくてはならない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

問題文の誘導に沿って考えを進めていく能力が要求される。教科書、参考書などをよく読んで基本事項を完全に把握し、入試問題の演習を重ねておく必要がある。